

# 令和7年産 麦作情報総括号

令和8年1月19日  
宮城県石巻農業改良普及センター  
TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999  
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/>



技術情報はここから

## 気象経過と生育概況

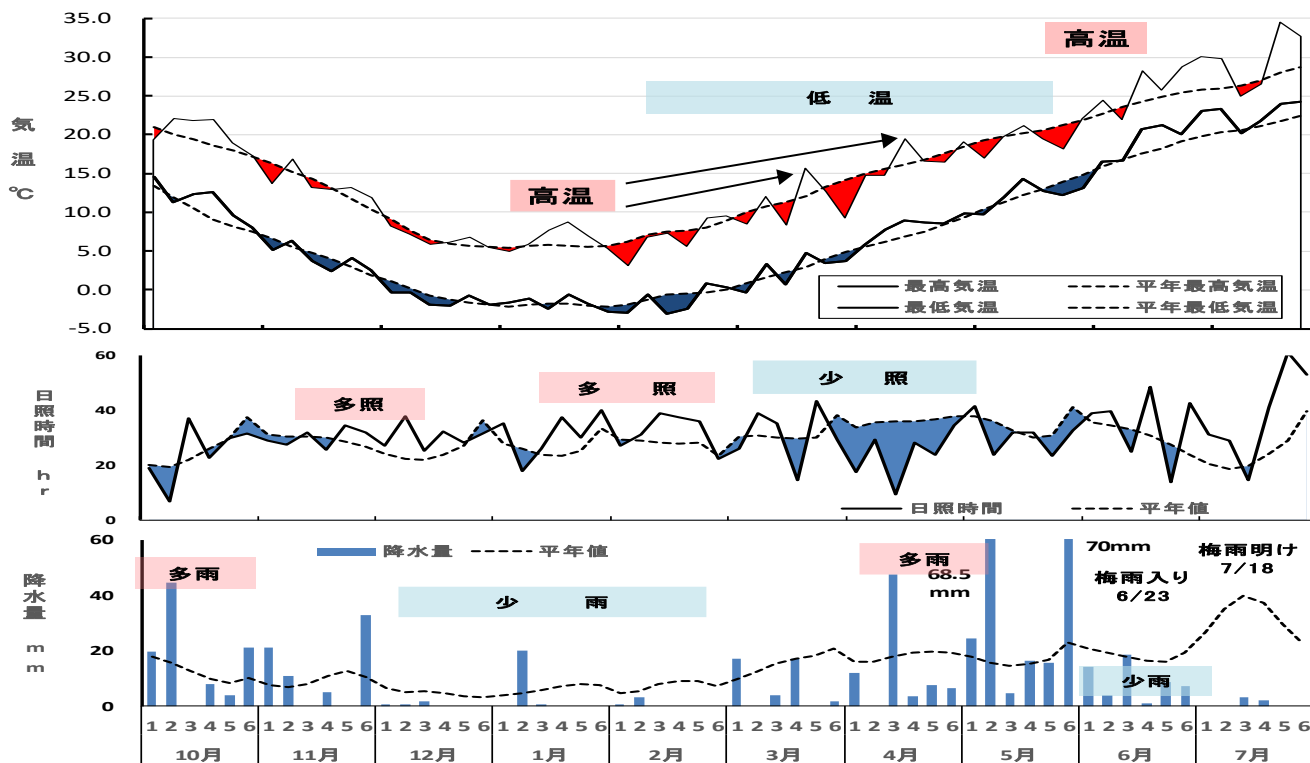


図1 麦類生育期間の気象経過(アメダス石巻)

### ○越冬前(10～12月)

気温は10月が平年より高く、11月～12月は平年よりやや低い～平年並みでした。日照時間は10月は平年より短く、11月は平年並み、12月は長くなりました。

降水量は10月～11は平年より多く、12月は少なくなりました。

→ 降雨の影響で播種時期は遅くなりました。

### ○冬期間(1～2月)

気温は1月は平年より高く、2月は平年より低くなりました。

降水量は少なく、日照時間は長くなりました。

→ 茎数の増加は順調でした。

### ○越冬後～成熟期(3～6月)

3月～5月の気温は全般には平年をやや下回りましたが、一時期、平年を上回る期間がありました。6月は高温でした。日照時間は3～5月は平年を下回り、6月は平年を上回りました。降水量は3～4月は平年より少ないですが、4月中旬にはまとまった降雨がありました。5月は平年を上回り、6月は平年よりやや少なくなりました。

→ 気温はやや低めでしたが、生育は順調で、十分な生育量・子実数が確保されました。

■10月中旬まで ■10月下旬 ■11月上旬 ■11月中旬以降

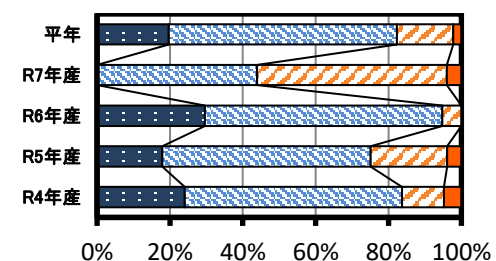


図2 時期別播種面積割合

R7年産は10月中に播種できたほ場は40%程度

## 生育ステージ

○播種日は10月の降水量が多かったため、全般には平年より遅くなりました。

○播種が平年よりも遅かったシュンライ・シラネコムギは、その後の生育ステージも平年よりも遅くなりました。播種日が平年より7日早い～平年並みのほ場は、その後の生育ステージは概ね平年並みでした。

○5月が低温少照であったため、大麦の成熟期は遅くなりました。

表1 生育調査ほの生育ステージ

	播種日	幼形期	減分期	出穂期	成熟期
シュンライ (給人町)	10/24 +11日	3/15 +21日	4/16 +3日	4/25 +3日	6/09 +7日
ミノリムギ (高須賀)	10/20 ±0日	3/14 -5日	4/18 -1日	4/30 +1日	6/12 +3日
ミノリムギ (真野)	10/24 -7日	3/19 -2日	4/13 -5日	4/26 -2日	6/12 +5日
ホワイト ファイバー (水沼)	10/16 -5日	3/13 ±0日	4/12 +1日	4/20 -1日	6/06 +5日
シラネコムギ (太田)	11/01 +5日	4/07 +5日	4/26 +2日	5/07 +2日	6/23 ±0日

※赤字は平年よりも早く、黒字は平年よりも遅い又は平年並であることを示す。  
※平年値は過去5か年の平均。

## 生育調査ほの生育経過

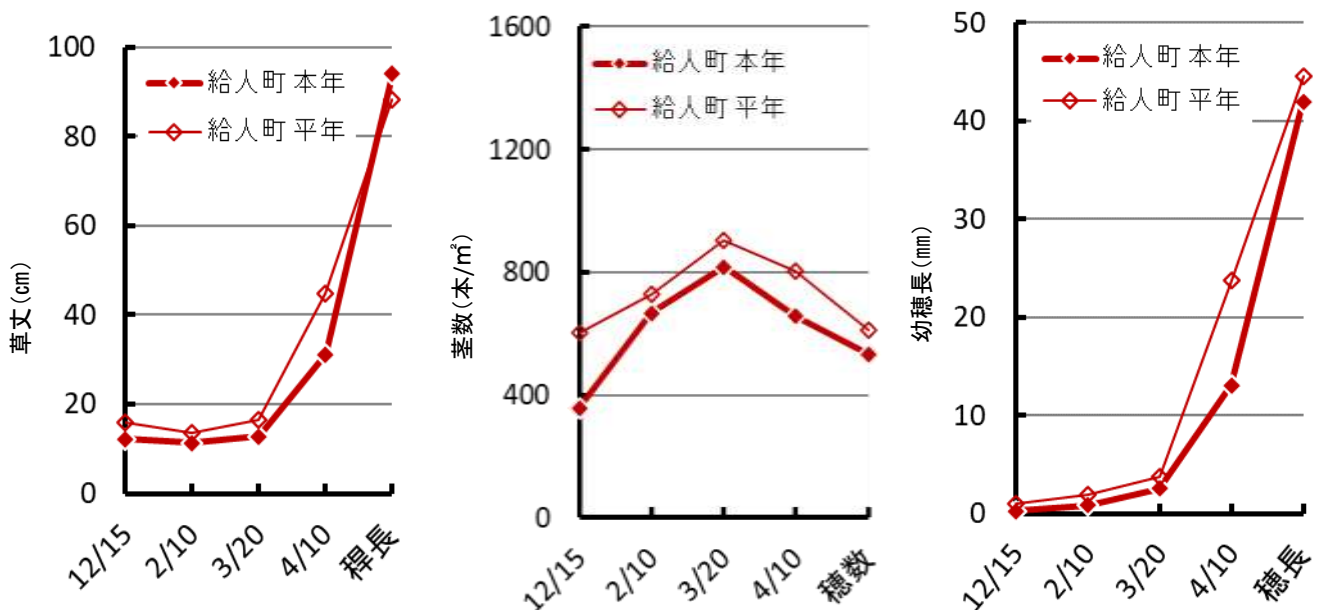


図3 草丈(左)、莖数(中)及び幼穂長(右)の推移(シュンライ)

※ 本年の播種日：10/24(平年差+11日)

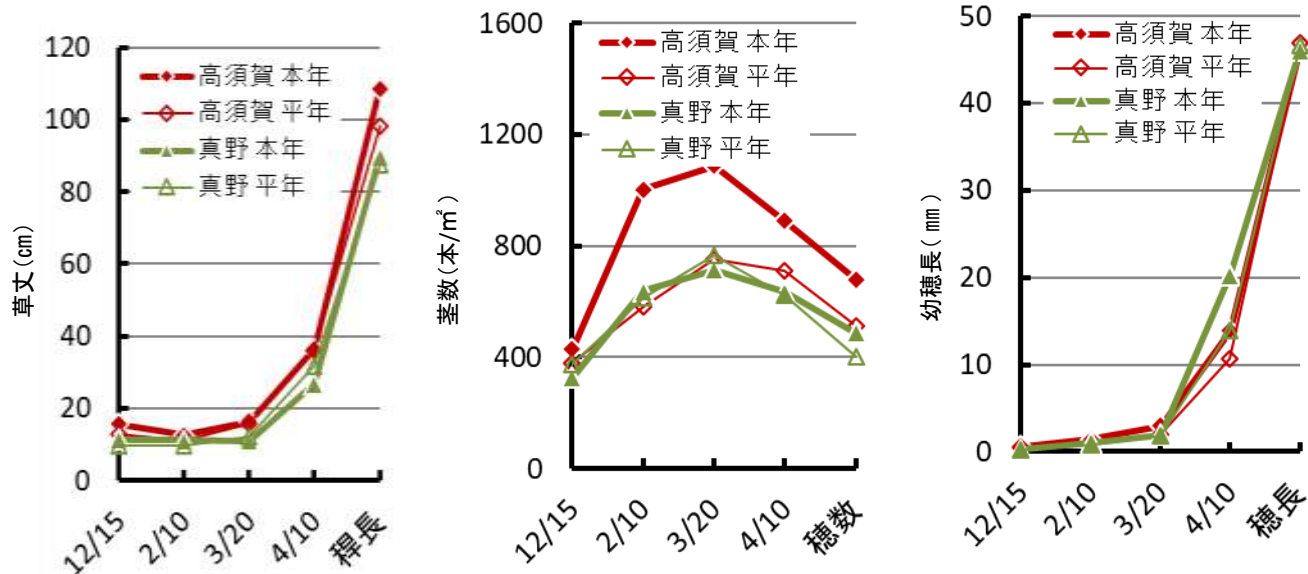


図4 草丈(左)、茎数(中)及び幼穂長(右)の推移(ミノリムギ)

※高須賀本年播種日: 10/20(平年差±0日)、真野本年播種日: 10/24(平年差-6日)

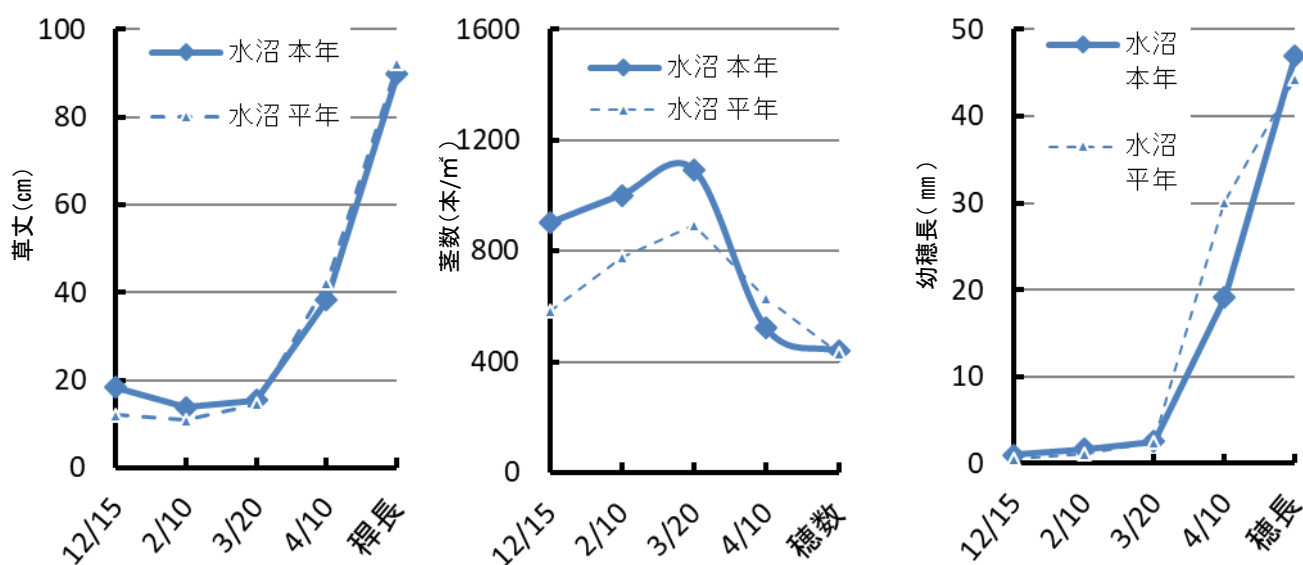


図5 草丈(左)、茎数(中)及び幼穂長(右)の推移(ホワイトファイバー)

※本年播種日: 10/16 (平年差-5日)

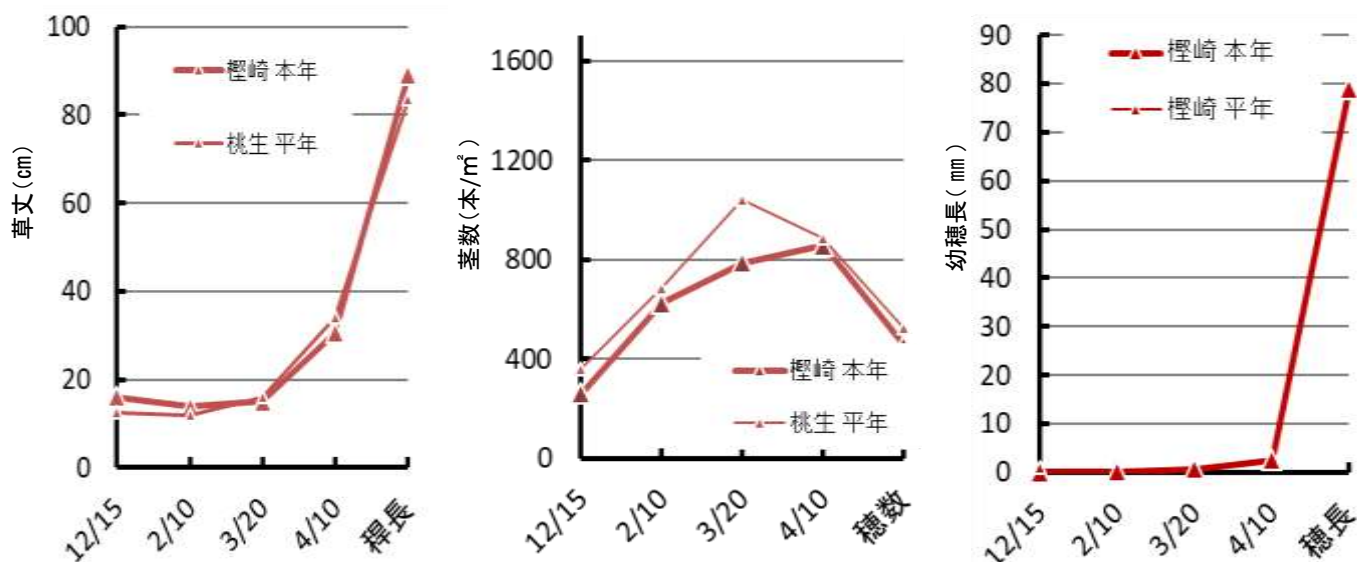


図6 草丈(左)、茎数(中)及び幼穂長(右)の推移(シラネコムギ)

※本年播種日: 11/1播種(平年差+4日)

# 収量及び品質

- ◆ 生育調査ほの収量(子実重)は、シュンライ、ミノリムギで平年を上回りました(表2)。
- ◆ 収量増加の要因として、シュンライは一穂当たり粒数が多かったこと、ミノリムギは穂数、㎡当たりの子実粒数が多かったと考えられました。
- ◆ 千粒重は平年より軽い～平年並で、容積重は平年を下回る～平年並となりました。

表2 生育調査ほの成熟期調査及び収量調査結果

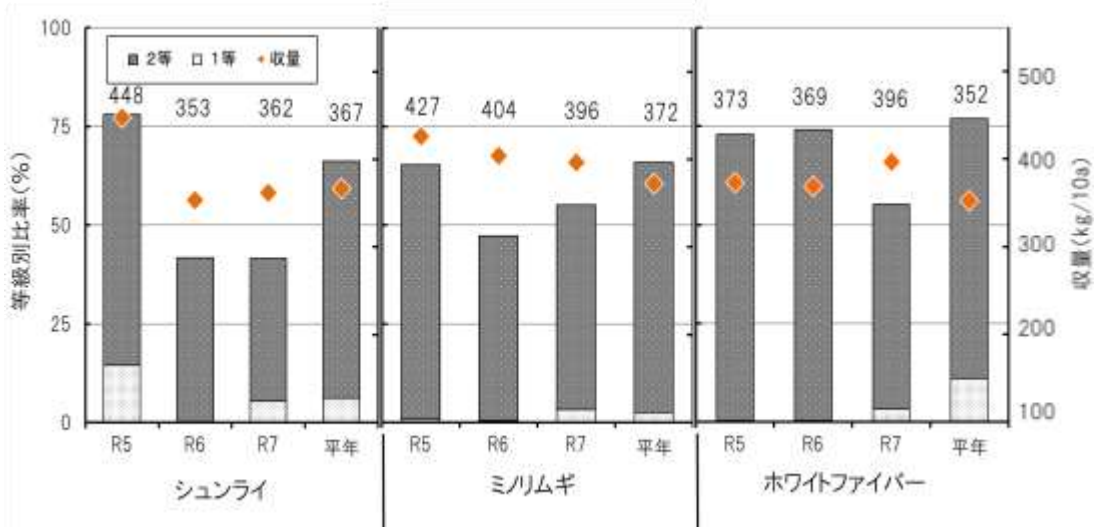
品種(調査ほ)		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	精子実粒数		千粒重 (g/千粒)	容積重 (g/L)	子実重 (g/㎡)	全重 (g/㎡)	わら重 (g/㎡)
					(粒/穂)	(千粒/㎡)					
シュンライ (給人町)	本年	94	4.2	534	38.2	20.4	36.9	672	753	1,454	539
	前年比	111%	86%	84%	116%	98%	107%	100%	104%	108%	109%
	平年比	107%	94%	87%	120%	107%	101%	99%	108%	103%	86%
ミノリムギ (高須賀)	本年	108	4.6	680	37.3	25.4	30.8	651	781	1,750	725
	前年比	113%	103%	132%	108%	142%	94%	95%	133%	158%	155%
	平年比	110%	98%	133%	102%	133%	89%	97%	114%	126%	123%
ミノリムギ (真野)	本年	90	4.6	489	31.2	15.3	33.9	634	517	1,189	451
	前年比	90%	103%	102%	80%	81%	106%	96%	86%	102%	94%
	平年比	103%	99%	121%	90%	105%	97%	97%	105%	116%	105%
ホワイト ファイバー (水沼)	本年	90	4.7	438	35.3	15.5	32.2	641	498	985	364
	前年比	93%	102%	91%	87%	80%	97%	98%	77%	80%	74%
	平年比	97%	106%	102%	101%	103%	90%	96%	94%	79%	79%
シラネ コムギ (桧崎)	本年	89	7.9	455	25.6	11.7	38.6	787	450	1,296	518
	前年比	113%	105%	116%	95%	110%	99%	98%	109%	142%	140%
	平年比	107%	97%	87%	99%	88%	97%	96%	85%	97%	85%

※平年値は5か年平均

※青は前年・平年より低い(少ない)、赤は前年・平年より高い(多い)ことを示す。

## 【大麦】

- ・ 収量はシュンライは平年並で、ミノリムギ・ホワイトファイバーは平年を上回りました。
- ・ 1、2等合計の割合は全ての品種で平年を下回りました。

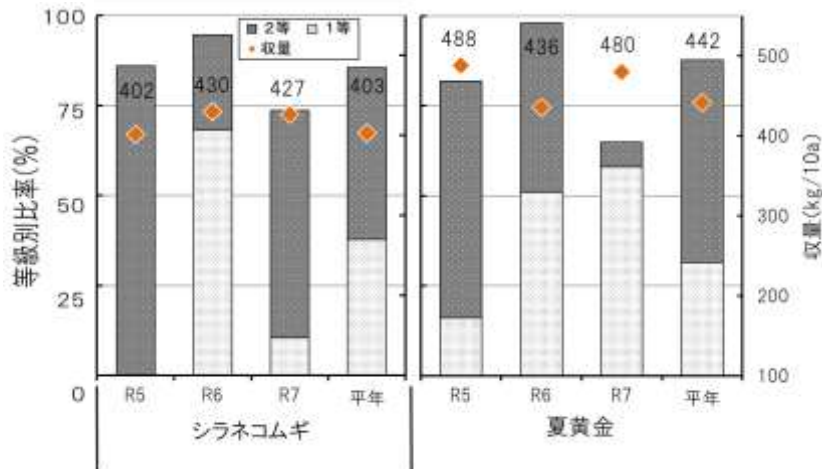


収 量	並 (平年比 99%)	多い (平年比 107%)	多い (平年比 113%)
1・2等割合	低い (平年差 -25)	低い (平年差 -11)	低い (平年差 -22)

図7 石巻管内の大麦検査等級別比率と収量の推移(JAいしのまき米穀課調査)

## 【小麦】

- ・収量はシラネコムギ・夏黄金とも平年を上回りました。
- ・1、2等の割合は両品種とも平年より低くなりましたが、夏黄金については1等比率は平年を上回りました



収 量	多い (平年比 106%)	多い (平年比 109%)
1・2等割合	低い (平年差 -12)	低い (平年差 -23)

図8 石巻管内の小麦検査等級別比率と収量の推移 (JAいしのまき米穀課調査)

## 作柄概況まとめ

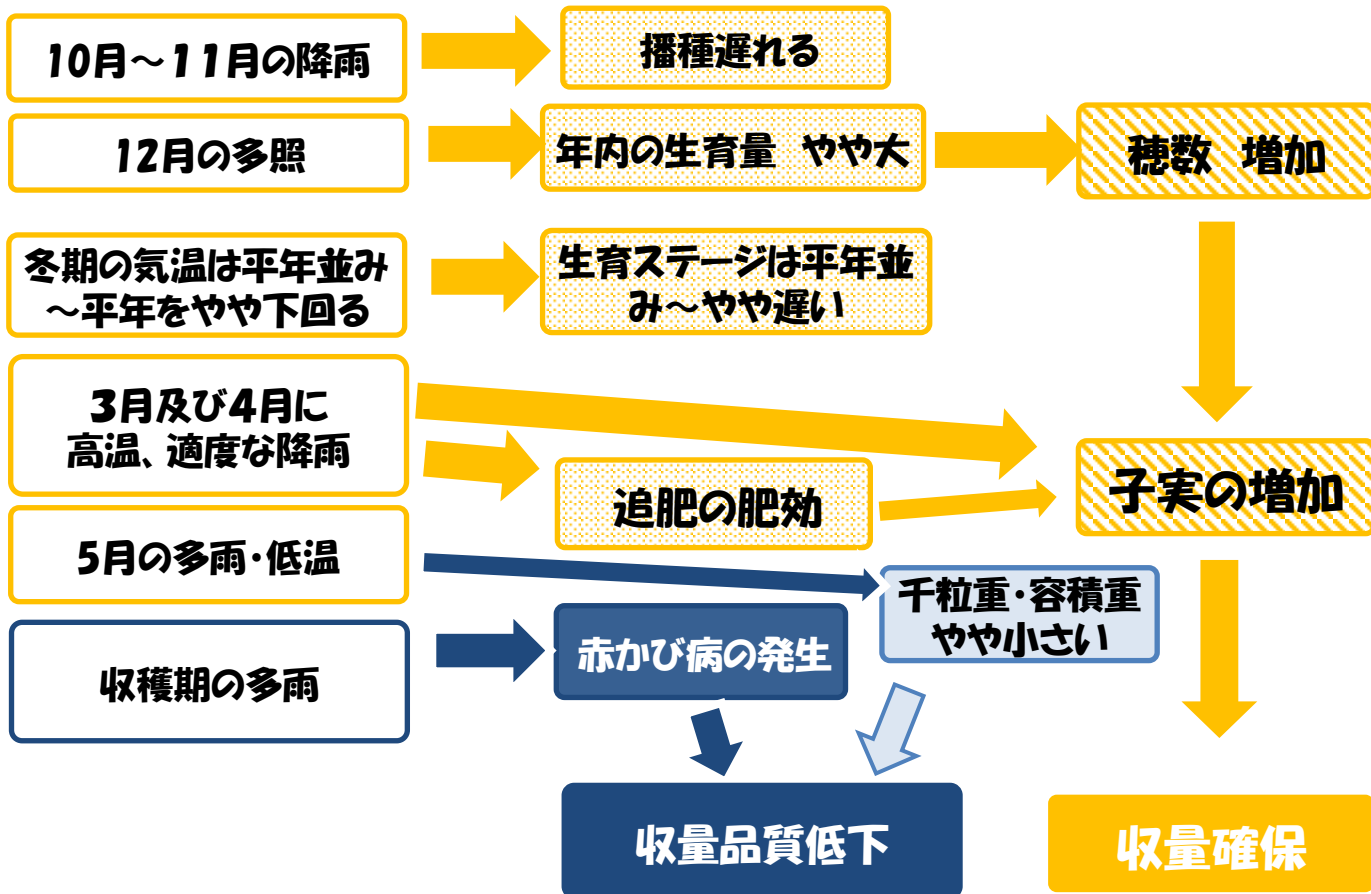


図9 令和6年播種 (令和7年産) 麦類の作柄解析

◆ 年度によって気象経過は異なりますが、麦類も他作物と同様に基本技術の励行が大切です！基本を確認し、適期作業に努めましょう。



# 令和7年産の課題：適切な防除・追肥で品質向上

## ○有機物施用と土づくり

- ◆ 畑地、あるいは水稻－麦－大豆などの畑作を含むローテーションが長年行われた土壌では、有機物の分解が水田に比べ急速に進み、地力は水田よりも早く消耗していきます。
- ◆ 土壌有機物が減少すると、地力低下や土壌物理性の悪化につながるため、毎年、堆肥等を投入して地力を維持していきましょう！
- ◆ 作業時間が確保できず、作付け前の堆肥散布が難しい場合は、ローテーションのなかで散布可能なタイミングを見付けて行いましょう！
  - ・ 牛ふん堆肥(窒素含有率1%程度) : 1t/10a以内
  - ・ 豚ふん堆肥(窒素含有率2%程度) : 500kg/10a以内

## ○生育に合わせた追肥

- ◆ ホワイトファイバー :  $\beta$ -グルカン含有率を維持するため、幼穂形成期に 2.5kgN/10a を追肥し、減数分裂期には葉色 (SPAD値) が41以上であれば2.5kgN/10a、41未満であれば5.0kgN/10a を追肥しましょう(普及に移す技術第96号)。葉色の測定は生育が平均的な株の主茎または主茎と同等に生育がすすんだ茎の展開第2葉で、20 株以上の平均を目安にしてください。
- ◆ 令和7年産麦作情報から葉色値も掲載しますので、ご参考にしてください。
- ◆ 起生期～幼穂形成期の追肥量が、4.5kgN/10a 以上になると、倒伏程度が高くなる傾向があるので、幼穂形成期までに過剰な施肥をしないようにしましょう。

追肥時期	幼穂形成期 (1回目)	減数分裂期 (2回目)
施 用 量	2.5kgN/10a	<div>葉色41以上 2.5kgN/10a</div> <div>葉色41未満 5.0kgN/10a</div>

図9 「ホワイトファイバー」の追肥時期と施用量

## ○適期防除

【開花始期～開花期の大まかな目安】

【大麦】 出穂期後 5～8 日頃

【小麦】 出穂期後 10～13 日頃

【赤かび病防除適期】

**1回目** : 開花始期～開花期

**2回目** : 1回目の7～10日後

**(3回目)** : 2回目の7～10日後

- ◆ 赤かび病防除は、**防除時期(特に1回目)**が重要です。
- ◆ 基本は2回防除です。ただし、**降雨が続く場合**や「**夏黄金**」の場合は**3回**の防除が必要です。
- ◆ 薬剤耐性菌対策のため、**RAC コードが同じ薬剤の連用を避け**、計画的に**ローテーション散布**を行いましょう。 ※RACコード: 農薬の有効成分を作用機序別にグループ分けし、アルファベット又は数字で表したものです。
- ◆ 「シラネコムギ」は**開花期が早まるほど発病リスクが高まる**ので適期を逃さないよう防除を行いましょう。  
(防除薬剤につきましては、JAIいのまき発行の麦・大豆栽培技術マニュアルを参照願います)